



## 平成25年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成24年12月27日  
上場取引所 東

上場会社名 株式会社トライステージ  
コード番号 2178 URL <http://www.tri-stage.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役CEO (氏名) 妹尾 勲  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 野口 卓 TEL 03-5402-4111  
四半期報告書提出予定日 平成25年1月11日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無： 有  
四半期決算説明会開催の有無： 有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成25年2月期第3四半期の連結業績（平成24年3月1日～平成24年11月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年2月期第3四半期	24,675	—	332	—	339	—	169	—
24年2月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 25年2月期第3四半期 168百万円 (—%) 24年2月期第3四半期 -1百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年2月期第3四半期	22.91	22.72
24年2月期第3四半期	—	—

(注) 平成25年2月期第3四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成24年2月期第3四半期の数値および対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年2月期第3四半期	12,579	8,302	65.8
24年2月期	—	—	—

(参考) 自己資本 25年2月期第3四半期 8,273百万円 24年2月期 -1百万円

(注) 平成25年2月期第3四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成24年2月期の数値については記載しておりません。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年2月期	—	0.00	—	20.00	20.00
25年2月期	—	0.00	—	—	—
25年2月期(予想)	—	—	—	20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

### 3. 平成25年2月期の連結業績予想（平成24年3月1日～平成25年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	33,224	—	296	—	300	—	133	—	18.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

平成25年2月期第3四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率については記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(注) 特定子会社の異動には該当いたしません。メールカスタマーセンター株式会社及び株式会社ディーピーシーを当第3四半期より連結子会社としております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

25年2月期3Q	7,556,400株	24年2月期	7,543,800株
25年2月期3Q	150,204株	24年2月期	150,147株
25年2月期3Q	7,398,643株	24年2月期3Q	7,518,851株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく、四半期連結財務諸表のレビュー手続を実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 当第3四半期連結会計期間において、メールカスタマーセンター株式会社の株式を50.2%取得したことにより、同社とその子会社である株式会社ディーピーシーを連結の範囲に含め、連結財務諸表を作成しております。通期の業績予想についても、連結業績予想を記載しております。

2. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性がございます。業績予想の前提となる仮定及び業績予想の利用にあたっての注意事項等については四半期決算短信(添付資料)P. 2「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

3. 当社は平成25年1月7日(月)に機関投資家向けに四半期決算説明会を開催する予定です。その模様及び説明内容については、当日使用する四半期決算説明資料とともに、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	2
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(4) セグメント情報等 .....	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

当第3四半期から四半期連結財務諸表を作成しているため、連結経営成績及び連結財政状態の前年同四半期等との比較分析は行っていません。

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、欧州の政府債務危機に伴う海外景気の下振れ懸念や、金融資本市場の変動等、景気を下押しするリスクが依然として存在したものの、東日本大震災の復興需要等を背景として、企業の生産活動や個人消費は緩やかな回復基調にありました。

一方、当社グループの顧客企業が属するダイレクトマーケティング市場は、通信販売の定着とともに依然として拡大基調が続いているものの、市場規模が拡大したことから、その伸長率は鈍化傾向となっております。

このような環境の下、当社グループはダイレクトマーケティング実施企業に対してバリューチェーンの各局面で最適なソリューションを提供するべく努めてまいりました。また、中期的な成長戦略として位置付けた「WEBビジネスの推進」、「CRMビジネスの推進」、「国際ビジネスの推進」を推し進めるべく、社内体制を整えるとともに、外部との連携を含めた基盤づくりに取り組んでまいりました。なお、「CRMビジネスの推進」については、顧客管理(CRM)の支援を強化し、当社独自のトータルソリューションサービスを一層充実させるため、当第3四半期連結会計期間において、メールカスタマーセンター株式会社の株式を50.2%取得し、子会社化いたしました。

これにより、同社とその子会社である株式会社ディーピーシーを連結の範囲に含めております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は24,675,269千円、売上総利益は2,053,709千円となりました。販売費及び一般管理費は、貸倒引当金398,346千円を計上したこと等により1,721,187千円となり、営業利益は332,521千円、経常利益は339,298千円、四半期純利益は169,467千円となりました。

また、当グループはメールカスタマーセンター株式会社及び株式会社ディーピーシーを子会社化したことに伴い「ダイレクトメール発送代行事業」を新たな報告セグメントと認識し、当第3四半期連結会計期間よりセグメントの開示を行っております。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### ①ダイレクトマーケティング支援事業

ダイレクトマーケティング支援事業については、一部効率の悪いテレビ番組枠を返還する等、当社が確保するテレビCM枠やテレビ番組枠の見直しや、新たな業種・領域の顧客企業の発掘等に取り組んでまいりましたが、既存顧客企業の商品サイクルやテレビ通販市場の環境の変化等により顧客企業の収益性が低迷し、出稿量が減少したこと等により売上高及び収益性は前事業年度と比較して低下し、売上高は23,375,071千円、営業利益は343,777千円となりました。

#### ②ダイレクトメール発送代行事業

ダイレクトメール発送代行事業については、当第3四半期連結会計期間においてメールカスタマーセンター株式会社の株式を50.2%取得し、子会社化いたしました。同社の事業規模及び事業の性質を鑑みセグメント化したことにより、ダイレクトメール発送代行事業の売上高は1,300,198千円、営業損失は11,255千円となりました。

### (2) 連結財政状態に関する定性的情報

資産、負債及び純資産の状況

#### (資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、12,579,797千円となりました。この内訳は流動資産合計11,483,280千円、固定資産合計1,096,516千円となっております。

#### (負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、4,277,182千円となりました。この内訳は流動負債合計4,051,314千円、固定負債合計225,868千円となっております。

#### (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、8,302,614千円となりました。この主な内訳は資本金636,735千円、資本剰余金626,735千円、利益剰余金7,158,579千円となっております。この結果、自己資本比率は65.8%となりました。

### (3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年2月期の連結業績予想につきましては、平成24年12月27日に公表いたしました「連結決算開始に伴う連結業績予想に関するお知らせ」をご覧ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第3四半期連結会計期間から、メールカスタマーセンター株式会社及びその子会社の株式会社ディーピーシーを連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間  
 (平成24年11月30日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	6,992,595
受取手形及び売掛金	4,392,153
商品	146
仕掛品	738
貯蔵品	2,701
その他	202,307
貸倒引当金	△107,363
流動資産合計	11,483,280
固定資産	
有形固定資産	122,015
無形固定資産	
のれん	471,988
その他	74,724
無形固定資産合計	546,712
投資その他の資産	
破産更生債権等	392,011
貸倒引当金	△392,011
その他	427,788
投資その他の資産合計	427,788
固定資産合計	1,096,516
資産合計	12,579,797
負債の部	
流動負債	
買掛金	3,374,224
短期借入金	320,106
賞与引当金	133,322
その他	223,661
流動負債合計	4,051,314
固定負債	
長期借入金	133,129
退職給付引当金	52,760
資産除去債務	39,979
固定負債合計	225,868
負債合計	4,277,182

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間  
(平成24年11月30日)

純資産の部	
株主資本	
資本金	636,735
資本剰余金	626,735
利益剰余金	7,158,579
自己株式	△148,133
株主資本合計	8,273,915
少数株主持分	28,698
純資産合計	8,302,614
負債純資産合計	12,579,797

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)
売上高	24,675,269
売上原価	22,621,560
売上総利益	2,053,709
販売費及び一般管理費	1,721,187
営業利益	332,521
営業外収益	
受取利息	6,236
助成金収入	1,750
その他	475
営業外収益合計	8,461
営業外費用	
支払利息	1,598
その他	86
営業外費用合計	1,684
経常利益	339,298
特別損失	
固定資産除却損	19
特別損失合計	19
税金等調整前四半期純利益	339,279
法人税、住民税及び事業税	351,506
法人税等調整額	△181,016
法人税等合計	170,489
少数株主損益調整前四半期純利益	168,789
少数株主損失(△)	△677
四半期純利益	169,467



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

		当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	168,789	168,789
四半期包括利益	168,789	168,789
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	169,467	169,467
少数株主に係る四半期包括利益	△677	△677

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

(セグメント情報)

当第3四半期連結会計期間から四半期連結財務諸表を作成しているため、前第3四半期連結累計期間については記載しておりません。

当第3四半期連結累計期間（自 平成24年3月1日 至平成24年11月30日）

1. 報告セグメントの概要

当社グループの事業セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、メールカスタマーセンター株式会社及び株式会社ディーピーシーを連結子会社としたことに伴い「ダイレクトマーケティング支援事業」及び「ダイレクトメール発送代行事業」の2つを報告セグメントとしております。

「ダイレクトマーケティング支援事業」はダイレクトマーケティングを実施する企業への各種メディア枠の提供に加え、各種表現企画、制作、受注・物流等におけるノウハウ等のソリューションの提供を主な業務としております。

「ダイレクトメール発送代行事業」はダイレクトメールを発送する企業に対し、郵便やメール便等を利用し、印刷封入封緘作業等を含めた発送代行を主な業務としております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	ダイレクトマーケティング 支援事業	ダイレクトメール 発送代行事業	合計
売上高	23,375,071	1,300,198	24,675,269
セグメント利益又は損失(△)	343,777	△11,255	332,521

3. 報告セグメントごとの利益又は損失の合計額と四半期連結損益計算書計上額の差額及び当該差額の主な内容

(差額調整に関する事項)

報告セグメントの利益又は損失の合計額と四半期連結損益計算書の営業利益は一致しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

平成24年11月21日付でメールカスタマーセンター株式会社の株式50.2%を取得し、同社及びその子会社である株式会社ディーピーシーを連結子会社化したことにより、ダイレクトメール発送代行事業において、のれんが発生しております。

なお、当該事象によるダイレクトメール発送代行事業ののれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては、488,280千円であります。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。